



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和5年度 第10号
令和6年 1月31日
さいたま市立土合小学校

〒338-0832 さいたま市桜区西堀 7-21-1

TEL 048-862-5156

FAX 048-836-1580

二宮金次郎像に書かれている「至誠」とは

校長 菊地 勇

暦は、もうすぐ、「立春」です。東門付近のフェンス沿いに植えてある「河津桜(カワヅザクラ)」はつぼみを大きく膨らませ、数輪の花が咲いています。早咲きの桜ですから、春を告げているのかもしれない。

最近、東門であいさつ運動をしていると、この人誰？(右写真)とかランドセルを背負って歩きながら本を読んではいけないのにとよく声をかけられました。

この方は、**二宮金次郎**(にのみやきんじろう)

【大人になって**尊徳**(そんとく)】です。

二宮金次郎は、江戸時代の末期に農民の子として生まれ、とても貧しい少年時代を過ごしました。仕事を手伝いながら寸暇を惜しんで読書したり、箱に砂を入れて棒で書いては消すことを繰り返したりしながら、勉強をしたのは有名な話です。だからなのでしょう、金次郎像は、薪を背負いながら、本を読む姿になっています。その少年時代の金次郎を模範として昭和時代、二宮金次郎像を設置する小学校が増えたようです。

台座には「至誠」と書かれています。→

二宮金次郎(尊徳)は230年以上前に生まれましたが、後半生は、荒廃した農村の復興・再建に捧げたといわれています。その数700以上とも。その思想は、「報徳の教え」として4つの視点が示されています。①至誠(しせい)…誠を尽くす、真心を持って ②勤労…工夫して、楽に仕事をする ③分度(ぶんど)…それぞれの収入の中であった生活をする ④推攘(すいじょう)…余ったお金を貯めておく、社会のためにつかうこと など視点が示されています。その考え方を含め技術を伝えながら、農村改革、持続可能な農村づくり(SDGsみたいですね)を支援したのです。

その中でも、「至誠」は基本とされ、「報徳への道」は、「至誠」と「実行」だといわれています。「至誠」は、「真心」を持って、物事に取り組み、「誠実」に行うことです。なかなか例えづらいますが、「至誠」とは、正直な心・あたたかい心・粘り強くと考えます。あたたかい心は、学校教育目標にもなっています。苦勞して、工夫して勉学を続け、農村復興に尽力した人生は、素晴らしい教材だと思います。様々な考え方がある中で、全国的に像がなくなっていくのは寂しいことです。2月の講話朝会では、これらの話をしたいと思います。

★ご家庭でも、ご指導ください★ (2月の講話朝会でも話をします)

保護者や地域の方からの情報で、通学路の私有地に許可なく侵入したり、落書きをしたり、駐車している車をさわっている、傷つけているなどの行為があるとのこと。学校では、情報をいただいたらすぐ指導をしているところです。私有地(駐車場も含む)に入る、人のものを勝手にさわる、傷つけることは絶対にいけません。学校では繰り返し指導していますが、ご家庭でもご指導をぜひお願いいたします。

